

声楽公開レッスン

講師：ウィリアム・マッテウッツィ教授

2024年10月5日(土) 14:00開演(13:30開場)

会場：講堂小ホール 入場無料

通訳・ピアノ：高島 理佐

～プログラム～

1. 森山 太陽 (学部4年/バリトン) MORIYAMA Taiyo
《La Favorita》“Vien Leonora”..... Gaetano Donizetti(1797-1848)
歌劇《ラ・ファヴォリータ》より “来たれ、レオノーラ” G.ドニゼッティ
2. 遠矢 和音 (修士1年/ソプラノ) TOYA Kazune
《I Capuleti e i Montecchi》“Oh! Quante volte, oh quante”..... Vincenzo Bellini(1801-35)
歌劇《カプレーティとモンテッキ》“ああ、幾度か” V.ベッリーニ
3. 杉瀬 芳斗 (修士1年/バリトン) SUGHISE Yoshito
《Il Barbiere di Siviglia》“Largo al factotum della città” Gioacchino Rossini(1782-1868)
歌劇《セビリアの理髪師》より “私は街の何でも屋” G.ロッシーニ
4. 後藤 悠斗 (修士1年/バリトン) GOTO Yuto
《Giulio Cesare in Egitto》“In tal modo si premia...Dal fulgor di questa spada” Georg Friedrich Händel(1685-1759)
歌劇《エジプトのジュリオ・チェーザレ》より “これが私への報酬なのか...この剣の輝きで” G. F.ヘンデル

～講師プロフィール～

ウィリアム・マッテウッツィ (William Matteuzzi)

イタリア・ボローニャに生まれる。22歳の時に、カルーソ・コンクールで優勝後「マノン」(マスネ)のデ・グリュエを歌いオペラデビューを飾る。20代にして早くもオペラの殿堂・ミラノスカラ座に登場し、「イドメネオ」(モーツァルト)「夢遊病の女」(ベッリーニ)「なりゆき泥棒」(ロッシーニ)等に出演し大成功を収める。その後も活躍の場を海外に広げ、ウィーン国立歌劇場での「セビリアの理髪師」「アルジェのイタリア女」「ランスへの旅」等で大成功を収めた。1986年から、毎年ロッシーニの生地ペーザロで行われている「ロッシーニ・オペラフェスティバル」に出演。ほぼ毎年、シーズンの主要演目の主役テノールを歌って絶賛を博し、短期間で同フェスティバルでの不動の地位を築きあげ、世界的に見てもロッシーニのオペラになくはならない存在となった。特筆すべきは彼の驚異的な高音の声域で、3点Fすらファルセットでは無く胸声でしかも自然体で歌う事ができることから、《King of High F》と呼ばれる事となった。マッテウッツィ氏はロッシーニ歌手としての印象が強いが、音楽様式と特質の明確な把握・それを完璧に具体化し再現する実力を持ち、バロック音楽から近代作曲家の作品までレパートリーが幅広く、フランス音楽の分野にも造詣が深い。2016年にティート・スキーパ賞を受賞。またキジアーナ音楽院の講師を務める。同年、世界中の子守唄を集めたCD《La Luna Prigioniera》をリリース。2015年9月に国立音楽大学のマスタークラスに講師として招聘され、その後定期的に来日している。

※ 就学前のお子様のご同伴・ご入場はご遠慮ください。

※ 公開レッスン開催に際しまして留意事項がございますので、本学公式 Web サイトでご確認ください。

※ やむを得ない事情により出演者や内容等が変更になる場合がございますので、予めご了承ください。



主催/国立音楽大学

お問合せ：国立音楽大学演奏芸術センター 042-535-9535 <https://www.kunitachi.ac.jp/>